

特集 | ヘルスケア分野での統合によるシナジー創出

# ヘルスケアプラットフォームを活用し トランスフォーメーションを加速

2020年3月、MCHCは田辺三菱製薬を完全子会社化し、グループの技術と人材を世界的な人口増加や高齢化に伴って成長するヘルスケア分野に振り向け、一層強化する方針を打ち出しました。その背景と、グループシナジー創出に向けた取り組みを紹介します。



## グローバルに成長するヘルスケア市場で 中長期の観点から「医療進化」を推進

世界では、人口増加と高齢化により医療費増大が各国の財政を逼迫させる一方で、医療技術の進歩によって健康寿命延伸への期待も高まる中、ヘルスケア分野ではこれら課題を解決する新たなビジネスモデルが求められています。

2005年の設立当初からヘルスケア事業を収益安定のためのコア事業の一つと捉えてきたMCHCは、社会の要請と技術革新の方向性を踏まえた中長期経営基本戦略「KAITEKI Vision 30 (KV30)」(P.11 参照)において「医療進化」を重点事業領域の一つとして掲げるとともに、市場成長性、技術イノベーション余地と市場規模に鑑み、「予防医療」「プレジジョンメディシン」「再生医療」の3つを、医療進化に資する成長事業として特定しました。

その具現化に向けた大きな一歩となるのが、今回の田辺三菱製薬の完全子会社化であり、MCHCは、同社が持つユニ

ークで画期的な創薬力、薬事や医薬品製造分野に関するGxP<sup>\*1</sup>法規制対応のノウハウと知見をはじめ、医薬品流通・販売ネットワークなどのサプライチェーン、そして医療関係者・患者さんとの信頼関係をグループ内で最大限に活用することで、スピード感を持って課題解決に取り組んでいく計画です。

また、イノベーションの高度化に向けて、研究開発体制についても広く連携していきます。MCHCは従来からグループ力を結集して

- 化学素材による生体適合材料開発
- 医療用ガスアプリケーション開発
- Muse細胞<sup>\*2</sup>を用いた再生医療などに取り組んできましたが、今後、成長3事業の開発を加速していくためには
- バイオテクノロジーとマテリアルサイエンスの融合
- ヘルスケア関連データの収集・解析
- 予防から治療におけるデジタル活用

などが欠かせません。田辺三菱製薬を完全子会社化することで、バイオ・化学・デジタル分野の「技術」「人材」などの経営資源を統合し、それらを活用しながらグループ一体となって研究開発を推進することで、研究開発投資の持続性の確保とその効果創出の最大化を実現し、将来へのパイプラインを強化していきます。

\*1 GxP：Good x Practiceの略。安全性や信頼性を確保することを目的に政府等で制定する基準で、xには、ClinicalやManufacturing等がある。  
\*2 Muse細胞：Multilineage-differentiating Stress Enduring cell

## ソリューションプロバイダーとして 独自のプラットフォームであるべき社会を実現

KV30で掲げる「医療進化」の実現に向けては、デジタル技術を駆使して生涯にわたる疾病管理を可能にし、予防医療やプレジジョンメディシンを推進するための「ヘルスケアプラットフォームの構築」が不可欠であり、次期中期経営計画の中で実現していきます。また、2019年8月には事業会社の一つである生命科学インスティテュートがヘルスケア分野で国内大手のPHCホールディングス(株)と戦略的資本提携合意を完了し、今後も両社間で積極的なコラボレーションを推進していきます。

一方で、医療進化には、「ビジネスモデルの変革(図1)」も欠かせません。そのためには、最終的に「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ<sup>\*3</sup>」に貢献するための、さまざまな規制緩和や社会変革が必要になってきますが、MCHCは、関係機関と折衝しながらコアメンバーとして社会システムをけん引していきたいと考えています。そして、最適かつ効率的な医

療の提供により、予防から治療まで生涯にわたって健康を維持できる社会システムを構築し、KV30でめざす社会を実現していきます。

\*3 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態

## グループシナジーの最大化に向けて

MCHCは、ヘルスケア分野におけるグループシナジーを最大化していくため、2019年12月に「シナジー創出委員会」を設立し、「事業」「コーポレート」「デジタルトランスフォーメーション(DX)」の3つの観点に基づくグループ横断的な戦略立案と意思決定のプロセス検討を開始し、具体的な施策の実行へと歩みを進めています。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向け、MCHCグループが貢献できる事業テーマの検討を開始しています。

シナジー創出の実効事例(図2)として注目されているMuse細胞製品は、製造工程における三菱ケミカルの材料の活用、細胞保存などに大陽日酸のコールドチェーンの利用、そして田辺三菱製薬によるこれまでの医薬品開発・製造・販売の人材とノウハウの活用など、まさにグループとして連携に取り組んでおり、2021年度の承認をめざし、販売体制の構築を進めています。

今後、シナジー創出に向けたさまざまなテーマ(図2)に取り組む、MCHCグループの中長期的な企業価値向上をめざします。

図1: 「医療進化」領域のビジネスモデル変革

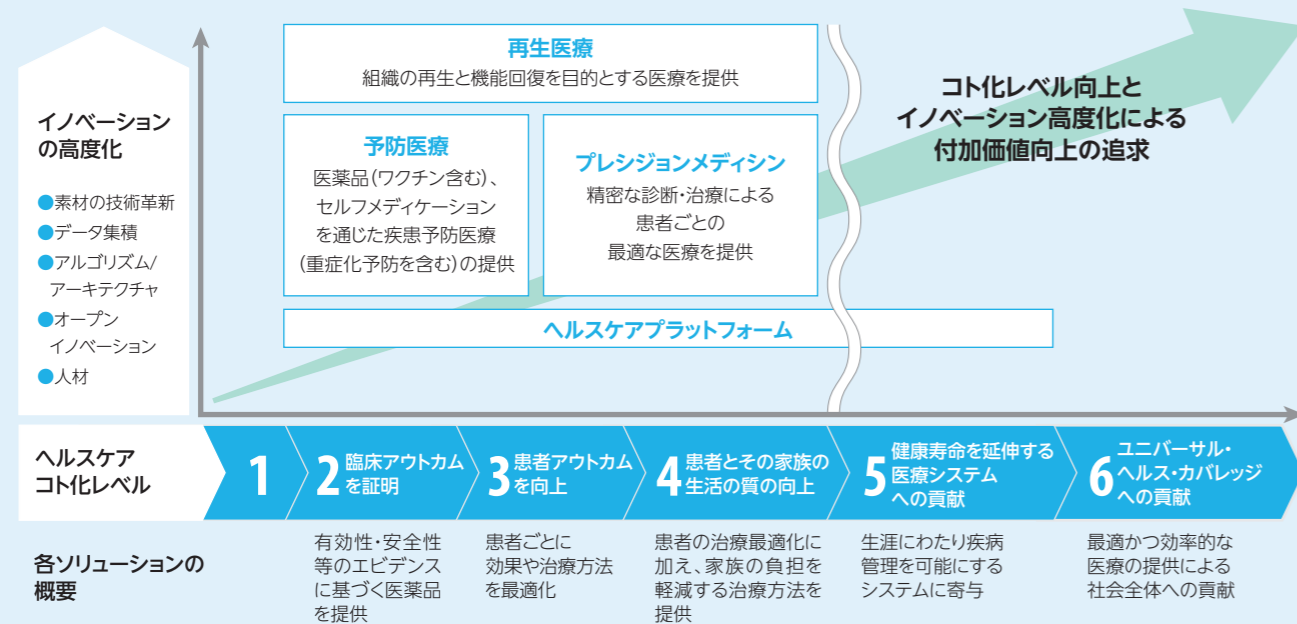


図2: シナジー創出委員会での取り組みテーマ例—コト化レベルの向上のために、グループ間でさらに連携

テーマ	三菱ケミカル	田辺三菱製薬	生命科学 インスティテュート	大陽日酸
事業	Muse細胞製品の事業化に向けた連携			
	足場材他、培養周辺材料の製造・大量培養装置の開発	医薬品開発・製造・販売の人材とノウハウの活用	Muse細胞の加工(培養)と製剤化	コールドチェーンの構築(凍結保存)
	再生医療			
	医薬+医療材料			
	営業連携			
	R&D連携			
マイクロバイオーム	新規事業や解析・制御技術等について検討開始			
感染症などのパンデミック対応ビジネスへの挑戦	シナジー創出があるか検討開始予定			
コーポレート連携	法務組織については統合、今後、さらなる効率化・高度化をめざす			
DX/ヘルスケア統合プラットフォーム	グループ間連携を強化するよう検討開始			